

## ふるさと見聞録

うと同時に、やはりそうだと意を強くしたことでした。

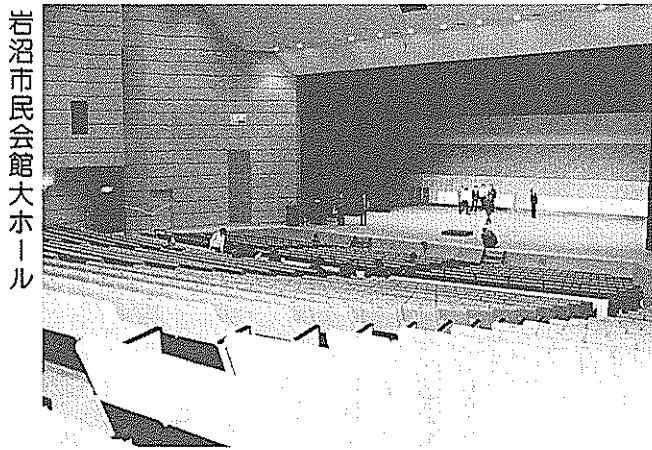
大ホールもさることながら、中ホールが利用の幅が広く、便利だなと思えました。市民の文

化活動を支えていくのは派手な感じのある大ホールよりもむしろ中ホールのような柔軟性のある空間ではないでしょ

うか。

ともかくにも、いろんな問題はモノができてから初めて出てくるのであって、できればできたで何とかなっていくはず。「ない」と「ある」では大違いなのです。そのほか仙台空港や青葉城址を見学し二日目の日程を終えました。

家庭でも社会でも人と交わることから何かが生まれます。今回、私たちは岩沼市の方々と「あたたかな交流」ができました。南国市で



岩沼市民会館大ホール

の交流会以上に深まり、この輪がますます広がっていくことを望んでいます。行政レベル、個人レベルでの交流を続けていくことがこれからの両市の発展に貢献するのは確かです。姉妹都市として岩沼市に負けない発展の道を南国市は、そして私たちは探っていくべきではないでしょうか。

## 部落問題の正しい理解のために

高知県教育委員会では、同和問題の早期解決を目指し、地域ぐるみの同和教育の徹底を図り地域の指導者を育成するために、昭和五十六年度より「同和教育推進講座」を実施しています。今回は、その講座に参加した人の感想文を紹介いたします。

### 推進講座に参加して

『六回の講座、大変勉強になりました。ありがとうございます。』

最初、同和教育推進講座を受けるように言われたときは、はっきり言って嫌でした。なぜなら、同和問題というのは、部落の人々の問題だと考えており、同和教育の必要性について否定的であったからです。そして、いまだに部落差別が残っているという実感がなかったからです。

ところが、学習していくうちに、まず間違えて教えられていることが分かり、また、現実に部落差別があるという

また、最後の講座を聞き、自分自身でも気がつかなかった差別意識があったことに気づかされ、その差別発言をした友達と私も同類なんだなと反省させられました。

一人間の手によって作り出された部落差別。人間の手によってなくしていくこと。人間一人一人が相手の身になり、相手の痛みを自分のこととして考えられるようになるれば、いつの日か差別のない世の中になると信じています。

最後に、一人ではできないことも、何人も力を合わせてできるようになるためには一人でも多くの人々にこのような講座を受けていただき、いつ、どんな所でも、胸を張って差別はいけないことだと勇気を持って言える人間になることを願っています。(そんな人間ばかりになれることを……)

同和問題は、他人のことだと思われている人がまだまだたくさんいます。この婦人のように市民の皆さんが学習会に参加され、正しい知識を持っていただきたいものです。

## 同和教育シリーズ

講座の中で、差別をしている人にツノが生えているわけでも、怖い人でもなく、ごく普通の人々が差別を無限に続けていくことの恐ろしさ。このようなくみを作ってきた政治や教育こそ問題なのだ。という話を聞いて、一つ救われた気持ちになりました。というのも、ごく親しくしている人から差別の言葉を聞き、その人柄に疑問を持ちかけていたときだったからです。